



令和3年度 **学校だより** 6月号

～ひとがすき まちがすき いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校 電話 331-5123 FAX 331-5343



異学年交流が豊かな心を育てる

副校長 佐々木 唯吉

あじさいの花が美しく咲く季節となりました。半袖を身に着けている子が増え、子どもたちの服装からも春から夏への移り変わりを感じます。

さて、5月12日（水）に「たてわりはじめましての会」が行われました。岩崎小学校では、1年生から6年生までの10名ほどのたてわり小グループが3グループ集まって1つのたてわり班を構成します。初回の活動では、自己紹介をした後、シンボルカード作りをしました。このシンボルカードは、たてわりグループで整列する際の目印にしたり、集合教室の前に掲示したりするなど、たてわりグループの正に「シンボル」となるカードです。

本来ならば、グループのメンバーが向かい合って座り、みんなで相談しながら作成しますが、新型コロナウイルス予防のため、椅子に座って全員が前を向いて活動しました。5cm四方の画用紙に好きなものやマークなどをペアで協力してかき、画用紙の周りに貼っていきます。近い距離で交流するのは難しい状況の中でも、上学年の子がデザインのテーマを決めたり、何をかこうか迷っている子へアドバイスしたりしながらカードを仕上げていました。今回の活動を通してペアの児童との交流を深め、グループとしての一体感を高められたと思います。

異学年交流は、ともすると「上学年が下学年の面倒をみる」というイメージがあるかもしれませんが、実際はそれだけではありません。上学年の児童には一層の自覚が生まれ、自分の行動を振り返るよい機会となり、リーダーシップと思いやりの気持ちが育ちます。更なる学びへと向かうことができます。また、下学年は上学年に憧れの気持ちをもつようになります。自分が高学年になったら同じようにしたいという気持ちが育ちます。このようにして上学年が下学年を大切にするという岩崎小学校のすてきな伝統がしっかりと引き継がれていきます。

こうした異学年交流は、以前は学校でなくとも自然にできていました。私がまだ小学生だった頃には、田舎育ちだったということもありますが、近所には多くの「空き地」がありました。そこには放課後になると、特に約束をしたわけでもなく、近隣子どもたちが集まり、年齢に関係なく思い思いに遊んでいました。そんな「空き地」で子どもたちは自然に年下を思いやる心を育んだり、長幼の序を学んだりしたように思います。年齢の違う友人から学ぶことは多いです。

今は空き地はあまりありません。子どもたちの放課後の過ごし方も多様になっています。学年を超える交流を促すには、時には意図的な仕掛けが必要になります。これからの社会は、多様な人々が共に生きる社会の実現を目指し、一人ひとりが多様性を尊重して生活していくことが大切です。そのために、小学校でできることの一つとして、これからも異学年交流を大切にしていきます。

